

黄金のラーメン

午前中に月に一度の経営会議が行われた。昨年度対比で売上が落ちているし様々な物価高騰で経費も上がっている。当然利益も落ちている。部課長たちと今後の対策を決め、役割を指示する。さて、私は長として何から手を付ければいいのか。眉間にしわを寄せながら会議室を出た。

昨日は深酒したためか、今朝は妙に腹が減る。景気の良くない会議後ということで気落ちもしていたが、気持ちとは裏腹に悲しいかな、腹は減るものだ。まずは戦うために腹ごしらえだな、とぼんやり考えていたところに、同業の社長から1本のライン。「(ラーメン屋の) きんちゃんのところ行きませんか」。

仕事に繋がる話もできるかもしれない、と向かうことにした。おっと、その前にきんちゃんに連絡しておこう。とラインを入れる。40分かけて到着。挨拶をすると「どうぞこちらへ」と予約席の札があるテーブルに通された。あの時の何気ないラインのおかげだ。さて、今日は何を頼もうかとメニュー表を手にするときんちゃんの奥様が、「今日は任せてもらっていいですか?」と言いながらニコニコしている。

こうなったら「ハイ」か「イエス」か「喜んで」。待っている間、誘ってくれた社長と仕事の話。これからの時代は、ただ単に物を運ぶだけでなく荷主さんに提案をしていかなければならないし、運送業者同士も手を組んで輸送効率化を図っていかなければならない。顧客も会社も満足いく仕事をするために、同業者間での情報交換は必須だ。

ラーメン屋で少々真面目な難しい相談をしていると、「お待たせしました」ときんちゃんの奥様。「昨日、お酒を召し上がられたとのことで、優しいゆず塩ラーメンです」。もちろん通常メニューにはないものだ。そこにきんちゃんもニコニコしながらやってきて、「今年もいいことがありますように、と面白いものをご用意しました」と、お箸を指さした。

「金箔ぱっकिन箸」と書かれた箸袋。え? なになに? と説明書を見ながら輝く透明スープの上で箸を割ると、なんと金粉がスープの上に舞い降りた。パキッと一瞬で京都の高級料理店にありそうな縁起の良さげな超高級ラーメンに変身。もちろんビジュアルだけでなく味も格別。アルコールでやられた胃袋に優しいスープが染入る。気落ちしていた私の心と胃袋を見抜かれているかのような一杯の黄金ラーメン。

顧客を喜ばせ満足させるために汗を流すのはラーメン屋も運送業も、いや、どんな職業でも同じだ。そうしなければ顧客は離れてしまう。いかに自分の職業に誇りと自信をもち、例え弊社のように少し売上が落ちたとしても、自分を信じ従業員を信じ、今まで以上にお客様のためにと踏ん張っていかなければ。「ASMさん(弊社)に任せておけば安心です!」と仰ってくれるお客様のためにも。

たった一杯のラーメンだが、今日もお腹まで幸せになれる奉仕をきんちゃんから頂いた。幸せすぎて午後からの会議の時、睡魔に打ち勝つのに難儀した。